国立国語研究所学術情報リポジトリ

「シリーズ言語資源学」の刊行にあたって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 研究社 公開日: 2026-07-24 キーワード: 作成者: 小木曽, 智信, 山崎, 誠 メールアドレス: 所属: 国立国語研究所, 国立国語研究所 名誉教授
URL	https://doi.org/10.15084/0002000719

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

「シリーズ言語資源学」の刊行にあたって

日本語研究の世界はもともと言語資源（言語資料）を用いた実証的研究と親和性があり、シンプルな定量的研究が1950年代ごろから行われてきた。21世紀に入り、コーパスや形態素解析ツール、統計ソフト等の普及により、種々のデータを使いこなして高度な計量的分析を行う環境が整ってきた。それにともない、研究の出発点であるデータそのものやその構築法が重要視されるようになった。言語資源学はこのような時代背景のもとに誕生したものである。言語資源そのものを研究対象と位置付ける学問体系が言語資源学と言えよう。

言語資源学とは、「言語の研究に使うデータやツールの望ましい姿に関する研究、そのデータやツールを作るための方法論の研究、そして開発されたデータやツールを使った言語の研究全体」（前川 2016: 2）を指すとされている。その全体像は言語学だけにとどまらず、広く関連領域にまたがったものになる。

本シリーズで扱う内容は、コーパスの構築や設計、利活用に関すること、辞書・シソーラス等の語彙資源の構築に関すること、方言文法を記述するための方法論に関すること、言語資源学に必要な基礎知識などであり、分野としては、書き言葉、話し言葉、方言、古典、学習者の日本語と多岐にわたる。全巻を通して現代の日本における言語資源が概観できるようになっている。

国立国語研究所は、第4期中期計画期間（2022–2027年度）のミッションとして「開かれた言語資源による日本語の実証的・応用的研究」という総合テーマを掲げ、共同研究プロジェクトを展開している。本シリーズの各巻の編者は、基本的に第4期のプロジェクトのリーダーが担当している。本シリーズはその活動成果の一端をまとめたものでもある。

本シリーズの特徴は、オープンデータ・オープンサイエンスの考えに基づき、コンテンツをウェブ上で誰でも読める形で公開することである。ただし、刊行から一定期間は紙媒体での流通とし、その期間を過ぎると国立国語研究所のリポジトリでの公開となる。

本シリーズの読者としては、大学の学部生や院生、日本語教育・国語教育に携わる方々を想定している。言語資源やコーパスについてひととおり学びたいという方はもとより、すでに学界で活躍されている方々の学び直しにもなれば幸いである。

近年、コーパスをはじめとする言語資源を一種の文化財としてとらえ、言語政策の一環として整備しようとする動きがある。また、言語資源が研究だけでなく、広い意味での社会貢献にどう効果をもたらすかなどの新たな課題も見えてきている。

言語資源学は比較的新しい用語であり、日本語研究の世界においてもそれほど浸透したものではない。言語資源学の最初の本格的な入門書に当たる本シリーズがこの分野の普及に幾分かでも貢献できればと願う次第である。

文献

前川喜久雄（2016）「仮想講義「言語資源学入門」」『日本語学』35（13）：2–11.

2025年8月

監修
小木曽智信
山崎 誠